

韓国人日本語学習者の誤用について

- 接続を中心として -

森山 新¹⁾

< 目 次 >

I. 序論

1. 研究の目的
2. 研究の対象と方法

II. 本論

1. 学習段階と接続の誤用

- 1.1. 項目別誤用傾向
- 1.2. 習得の3段階から見た接続助詞の習得
- 1.3. 初期の誤用傾向
- 1.4. 中期の誤用傾向
- 1.5. 後期の誤用傾向

2. 紛らわしい接続助詞

- 2.1. タラとノニ
- 2.2. ノニとケレド
- 2.3. ケレドとノダケレド
- 2.4. テとシ
- 2.5. テとカラ・ノデ

3. 接続の誤用の原因

- 3.1. 日本語教育の問題
- 3.2. 母語の干渉の問題

III. 結論

1) 弘益大學校

I. 序論

1. 研究の目的

一言で誤用といっても、発音、文字、語彙、形態、意味・シンタクスなど、様々な誤用が存在する。またそのレベルも、語彙レベルの誤用にはじまり、文構成レベルの誤用、さらには談話レベルの誤用など、レベルの異なる誤用が存在する。

本稿で扱う「接続」の問題は、意味・シンタクスの分野に属するが、誤用のレベルとしては、接続助詞によって結ばれた複文構造の前接要素 (S_1)と後続要素(S_2)とが、後続助詞を中心としてどのように結びつけられているかといった問題であり、語彙レベルの問題というより、文構成レベルの問題といえるであろう。

誤用はその種類によって、異なった分布を示す。「接続」の誤用は、主に学習中期に多く現れるが、本稿では特にこの「接続」の誤用に焦点を絞り、韓国人日本語学習者が学習段階の進展の中で、どのような「接続」の誤用を犯すのか、またなぜそのような誤用傾向を示すのかという、誤用の傾向と原因を探ることを主な目的とした事例研究である。

2. 研究の対象と方法

本稿の調査の対象は前回の事例研究「韓国人日本語学習者の誤用について」²⁾の際に収集したデータのうち、Kの作文を分析したデータ結果を用い、これを再分析したものである。

Kは入門から今日まで、欠かさずに筆者がかつて教えていた外国語学校に通い続けた学生であり、調査の対象となった作文は、学習開始から2カ月目の1993年6月から、継続して書き続けられた。ここではこのうち、1995年11月までの2年半の作文を調査の対象とした。

2)森山新, “韓国人日本語学習者の誤用について:作文による事例研究を中心として”(碩士學位論文, 高麗大学校教育大学院, 1996年 6月). 以下「前回の調査」とは, この論文の調査をさすこととする.

作文指導は学院の正規のカリキュラムにあったわけではなかったが、希望者を募り、課外的に作文指導（添削）を実施した。方法は毎日授業終了後に自宅で書いた作文を提出させ、次の作文を提出する際に添削して返却した。最初は毎回レポート用紙に書かせたが、94年6月からは作文ノートを2冊準備させ、1冊を添削している間にも絶えず作文が書き続けられるように工夫した。

作文の内容は、最初の2カ月（93年6～7月）は、その日に習った教科書の本文を応用して作文が書かれた。例えば「何時」という表現を習い、本文で「一日の生活」がテーマになっている日にはそのような作文が書かれ、「家族の呼び名」を習い、「家族紹介」が本文のテーマの時は、自分の家族紹介が作文として書かれた。

それ以降は日記のように、その日にあったできごとがテーマとなった。

文体は日記形式で作文を書いたため、初期を除いて「デス・マス体」はあまり用いられず、「ダ体」が中心であった。またKが「ダ体」を習得したいという個人的希望もあった。

データは便宜上、次のように5期に分けて整理した。

第1期；93年6月～94年2月（3～5月には作文は書かれなかった）

第2期；94年6月～94年8月

第3期；94年9月～94年11月

第4期；94年12月～95年2月

第5期；95年9月～95年11月

データ整理は誤用一つ一つをコンピューターに入力していき、それを項目別に分類した。例えば、93年7月に書かれた作文で「ねれば」を「ねたら」に修正したとすれば、次のように入力した。

9307 ねれば→ねたら バ→タラ

「9307」は「93年7月」、「バ→タラ」は誤用項目を示す。この場合は「バをタラに修正したこと」を意味している(詳しくは付録、<付録の見方>を参照)。

尚、データの数値が一部、前回の調査とは異なっているが、これは今回の再分析

を行う過程で、前回の調査での誤りをいくつか訂正したためである。また本稿では、調査期間の〈第1期〉から〈第5期〉のうち、学習1年目の〈第1期〉（93年6月～94年2月）を学習初期、学習2年目の〈第2期〉～〈第4期〉（94年6月～95年2月）を学習中期、学習3年目の〈第5期〉（95年9月～11月）を学習後期というように区分することにした。

II. 本論

1. 学習段階と接続の誤用

〈表1〉はKの作文に現れた「接続」の誤用傾向である。

これを見ると、「接続」の誤用は、〈第1期〉には少なく、〈第2期〉で増加し、〈第5期〉に入ると、「ノニ・ニモ」を中心に、調査期間中で最高値を示している。この結果によく現れているように、「接続」の誤用は、単文の多い学習初期にはあまり現れない。ところが学習段階の進展に伴い、複文が増え、接続の仕方が大きな問題となり、誤用が増えていった。

〈表1〉作文の各学習段階の「接続」の誤用数

	No.	項目	区分	自	9306	9406	9409	9412	9503	9509	合計
				至	9405	～08	～11	9502	～08	～11	
				期	1	2	3	4		5	
意味・シ ン タ ク ス	5.22	条件	接続		12	12	5	13		29	71
	5.23	か・乃	接続		7	12	10	14		10	53
	5.24	た・ニモ	接続		2	11	7	9		41	70
	5.25	けい・か	接続		2	9	6	8		21	46
	5.26	テ	接続		12	15	18	8		23	76
	5.27	ヲ	接続			3	2	1		1	7
	5.28	中・シ・列	接続		4	4	6			3	17
	5.29	か・ラ	接続		2		2	2		12	18
	5.30	引用	接続		5	6	7	4		8	30
	合 計		接続		46	72	63	59		148	388

註1)No.や項目、区分などは前回の調査に合わせた。

註2)「自9306 至9405」とは93年6月～94年5月に書かれた作文であることを示す。

註3)95年3月～95年8月にも作文は書き続けられているが、時間の都合上分析の対象から除外した。

1.1.項目別誤用傾向

それでは、接続の誤用が各段階でどのような分布・傾向を示しているのかを、さらに詳しく調べてみよう。

<表2>～<表10>は、接続の誤用の内訳である。

各項目別に誤用傾向を見てみると、

まず「条件」では、<第1期>や<第2期>に、「～면」「～더니」といった条件構文を「ト」に依存する傾向が強いことを<表2>は示している。これは学習初期においては、「ト・バ・タラ」の使い分けがうまくできず、その結果学習過程において一番最初に学習し、なおかつ活用が最も容易な「ト」に依存してしまうのであろう。今回は使用回数の調査を行っていないので、正確なことは言えないが、「バ」は誤用数が<第1期>には1例だったのが、<第2期>以降、それぞれ2例ずつ起きていることをみると、<第2期>以降に「バ」の使用が増えてくるようである。「タラ」は誤用がほとんどなく（1例のみ）、「ト→タラ」「バ→タラ」など、使われるべき所にも使われていないことから、学習段階が進展しても、あまり用いられていないことが窺われる。

<表2>各学習段階における「条件」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
01	ト →バ				1		1
02	ト →タラ	4	4		1	5	14
03	ト →ナラ	2					2
04	ト →テカラ	1					1
05	バ →タラ	1	2	2	2		7
06	バ →時は	1					1
07	ナラ →ナガラ				1		1
08	ノデ →ト	1					1
09	カラ →タラ	2	2	1	2	1	8

10	ノニ →タラ		1	1	2	19	2	3
11	テ →ト		1				1	
12	テ →タラ				2	1		3
13	タ →タラ					1		1
14	ナガラ→タラ					1		1
15	ハウガ→タラ					1		1
16	φ →タライイ				1			1
17	ヨウ →トイイ・タライイ		2	1				3
18	タライイ→ゼヒ～テクダサイ				1			1
「条件」の誤用 合計		12	10	5	13	27	7	1

註) 「φ→タライイ」は「タライイ」の欠落の誤用を示す。

一方、<第5期>をピークに、「タラ」を用いるべき「~더니」「~는데」に対し、「ノニ」を用いる誤用「ノニ→タラ」が急増している。こうした誤用は、「タラ」も「ノニ」も自由に用いることのできない学習初期には見られていない。

「カラ→タラ」の誤用は学習初期から現れているが、学習段階が進展しても、減少傾向を示していない。「カラ」は「~니」であり、「タラ」は「~더니」であるが、「タラ」の使用に慣れていなかったり、両者を混同したりして、「タラ」の代わりに「カラ」を用いてしまったものと分析される。また「タラ」に対する逃避傾向も見受けられる(Ⅱ.1.2.参照)。

次に「カラ・ノデ」の誤用を見てみよう。<表3>のように誤用の半数以上が「テ→ノデ・カラ」の誤用であり、これは学習段階が進行しても一向に減少していない。これは「テ→ノデ・カラ」の誤用の多くが一過性の「slip」や「mistake」ではなく、韓国語の干渉などによる「error」である可能性を示唆している³⁾。

また<第4期>を中心に「カラ→タメ」が急増している。これは「タメニ」と訳すべき「N+때문에」を「カラ」と訳す「N+이기 때문에」と錯覚して起きたものであろう。

3) 森山新, “韓国人日本語学習者の誤用について: 作文による事例研究を中心として” (硕士学位论文, 高麗大学校教育大学院, 1996年 6月), pp.20-21.

<表3>各学習段階における「カラ・ノデ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
19	テ →ノデ・カラ	4	7	7	3	7	28
20	カラ →テ		1		2		3
21	カラ →タラ	2	2	1	2	1	8
22	カラ →デ		1		1		2
23	カラ →タメ		1		4		5
24	カラ →モノ				1		1
25	φ →カラ			1	1		2
26	ノデ →ト	1					1
27	ノニ →ノデ					1	1
28	その他					1	1
	「カラ・ノデ」の誤用 合計	7	11	9	14	10	52

次に「ノニ・ニモ」の誤用である。<表4>の如く「~는데」の訳と思われる「ノニ」の誤用は<第1期>から<第4期>までの学習初期や中期にも見られなくはないが、<第5期>の誤用のピークに比べると、未だ少数にとどまっている。学習中期までは「テモ・ノニモ→ノニ」の誤用に現れているように、

<表4>各学習段階における「ノニ・ニモ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
29	ノニ →ケレド	1	5	3	4	11	24
30	ノニ →ノ.ダケレド	1	3		3	8	15
31	ノニ →タラ		1	1	2	19	23
32	ノニ (モ) →テモ			1			1
33	ノニ →テ					1	1
34	ノニ →ノデ					1	1
35	テモ →ノニ		2				2
36	ノニモ →ノニ			2			2
37	テ →ノニ					1	1
	「ノニ・ニモ」の誤用 合計	2	11	7	9	41	70

「ノニ」の使用も未だおぼつかないため、その使用が避けられている傾向が見られ

る。学習初期段階においては、「ノニ」よりは、「テ」に助詞「モ」をつけた「テモ」や、「ニ」に助詞「モ」をつけた「(ノ)ニモ」のほうが、むしろなじみやすいようである。

「ケレド」の誤用は<表5>の通りである。「ケレド」は単文が多く複文の少ない<第1期>にこそあまり用いられていないが、<第2期>以降、特に誤用もなく頻繁に用いられている。「ケレド」は用法も終止形接続と容易であり、意味的にも韓国語「~(지)만」に似た逆接であるため、特別に逃避段階もなく用いられるようになり、さらに意味・用法における制約も少ないことから、試行錯誤することもあまりなかったようである(Ⅱ.1.2参照)。

ところが「~는데」を「ノニ」で表現するに伴い、徐々に「ノニ→(ノダ)ケレド」の誤用が増し、<第5期>に誤用のピークを迎えている。これは「ケレド」の問題というより、むしろ「ノニ」の誤用の問題であると言えよう。

<表5>各学習段階における「ケレド・ガ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
38	ノニ →ケレド	1	5	3	4	11	24
39	ノニ →ノダケレド	1	3		3	8	15
40	テモ →ケレド		1	1		1	3
41	テモ →ノダケレド				1		1
42	テ →ケレド					1	1
43	ガ →ケレド			1			1
44	中止法→ケレド			1			1
	「ケレド・ガ」の誤用 合計	2	9	6	8	21	46

「テ」の誤用は、<表6>のように、他の接続助詞の誤用に比べて、<第1期>から誤用が目立っている。ということは、「テ」は<第1期>から比較的によく用いられたということである。<第1期>において、作文に占める複文の比率が増加するに伴い、学習者はまず、「テ」をよく使うようである。学習者の中には、文の接続の際に、誤って「ト」を使う者がいるが、Kの場合にはそうした誤用は見られな

かった。

また上述したように、理由を表す場合にも、「カラ・ノデ」を使わず、「テ」を用いたがる傾向がある。またこれには韓国語の干渉も影響している。2.8例中5例（うち<第5期>に4例）が、「~해서 그럴까」を直訳して、「~してそうかな」と表現している。ところがこうした場合、日本語は「~したからかな」と「カラ」が用いられる。理由を表す際には、日本語で「テ」を用いる比率よりも、韓国語で「テ」に相当する「~해서」を使う比率の方が高いものと思われる。

<表6>各学習段階における「テ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
45	テ →ノデ・カラ	4	7	7	3	7	28
46	ノデ・カラ→テ		1		2		3
47	テ →ナガラ	1					1
48	ナガラ →テ			1	1	10	12
49	テ →デ	1					1
50	デ →テ			1			1
51	テ →ノニ					1	1
52	ノニ →テ					1	1
53	テ →シ	1	3	6			10
54	テ →タラ				2	1	3
55	テ →中止法	2					2
56	テ →タリ		1				1
57	クテ →ク		1	1			2
58	テ →ト		1				1
59	テ →ヨウ			1			1
60	テ →ケレド					1	1
61	テ →ニ					2	2
62	テカラ →テ	1		1			2
63	カラ →テカラ	1					1
64	ト →テカラ	1					1
65	その他		1				1
	「テ」の誤用 合計	12	15	18	8	23	76

これは「テ」は「並列」と「理由提示」という二面性があり、「理由提示」に消極的なものに対し、「~해서」は「理由提示」の意味しか持たないため、「理由提示」

にやや積極的なためであろう。

「テモ」の誤用は<表7>のように、<第2期>から<第3期>に最も多くなっている。複文構造に「テ」を使う延長線上に、逆接に「テモ」を使ったのではないかと思われる。

<表7>各学習段階における「テモ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
66	テモ→ケレド・ガ		1	1	1	1	4
67	テモ→ノニ		2				2
68	ニモ→テモ			1			1
	「テモ」の誤用 合計	0	3	2	1	1	7

「中止法・シ・タリ」の誤用では、<表8>のように<第1期>から<第3期>までは、やはり中止法や「シ」、「タリ」のかわりに「テ」を用いてしまう誤用が目立つ。ところが<第5期>には、表現の多様化の過程の中で「シ」の誤った誤用が3例現れている。「シ」は終止形接続であり、過去形にも接続できるため、その面では「テ」に比べ使いやすい。こうしたことからか、「シ」は一旦使われ始めると安易に使われる危険性があり、その結果<第5期>に「シ」が必要以上に用いられたのであろう。

<表8>各学習段階における「中止法・シ・タリ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
69	テ →中止法	2					2
70	テ →シ	1	3	6			10
71	テ →タリ		1				1
72	シ →タリ					2	2
73	シ →ト					1	1
74	中止法→ケレド	1					1
	「中止法・シ・タリ」の誤用 合計	4	4	6	0	3	17

「ナガラ」の誤用は、<表9>の如く、何と言っても「ナガラ→テ」の誤用である。「ナガラ」は<第1期>こそあまり用いられていないが、<第2期>以降は特

に誤用もなく、「～ナガラ～スル」という形で用いられている。ところが<第3期>以降、「～ナガライル」という誤用が目立ち始めた。こうした誤用は<第3期>から<第5期>に12例、とりわけ<第5期>に10例見られている。これは韓国語の「～면서 있다」の直訳により「～ナガライル」となったのであろうが、日本語では「～ナガライル」はあまり用いられず、「～テイル」が用いられる。つまり「ナガラ」は行為の並列を示すが、「イル」という動詞を共起しにくいということである。但し「～ナガラ～イル」は可能である。例えば、

- ・ぶらぶらしながらいた。(9410)

は誤用であるが、

- ・ぶらぶらしていた。
- ・ぶらぶらしながらうちにいた。

は誤用とはいえない。

<表9>各学習段階における「ナガラ」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
75	テ→ナガラ	1					1
76	ナガラ→テ			1	1	10	12
77	ナラ→ナガラ				1		1
78	その他	1				2	3
	「ナガラ」の誤用 合計	2	0	1	2	12	17

「引用」の誤用は<表10>のように、各段階に均等に現れている。これは他の接続とは異なり、「引用」は代用する表現がなく、避けて通ることができないためと分析される。例えばある学習者が「タラ」を難しいと感じる時、その学習者は恐らく「ト」や「バ」を代用するであろう。ところが「引用」は難しいと感じても、他の表現をもって代用がきかない。そのため「タラ」のような逃避段階を持つことができず、<第1期>から試行錯誤しつつ用いられているのであろう。

<表10>各学習段階における「引用」の誤用傾向の内訳

	誤用の種類	学 習 段 階					合計
		1	2	3	4	5	
79	φ →ト		4	3	2	5	14
80	φ →トイウ	1		1	2	1	5
81	ト →トイウ	2	1	1			4
82	ト →ッテ					1	1
83	ッテ →ト					1	1
84	φ →トオモウ	2		2			4
85	その他		1				1
	「引用」の誤用 合計	5	6	7	4	8	30

引用「ト」の誤用の半数以上は、「ト」の欠落である。これは韓国語の干渉によるもので、韓国語では「~할까 생각하다」であり、これを直訳すれば「~（よう）か思う」「~（よう）かな思う」となる。このように韓国語では「カ/カナ」の後の「ト」が省略される。その影響で79)で「カ/カナ」の後の「ト」が欠如したのであろう。

80)81)の「(ト)イウの欠落」では、そのほとんどが引用の「トイウ」ではなく、強意の「トイウ」の欠落である。「トイウ」には、

- 1)伝聞・引用を表す用法
- 2)名づけ・つながりの用法
- 3)前接する要素を取り立て、それを強める用法

とがある4)。

このうち3)の強意の「トイウ」は、

- 1)それがなくても意味の上ではあまり変化がない。
- 2)韓国語で強意の「トイウ」は「~라고 하는→~는」という省略形が用いられる。

といった理由から、欠落しやすいものと思われる。

「トオモウ」の欠落は、韓国語では「いいです (좋습니다)」と「思う」をつけない

4)今尾ゆき子, “「ケレド」と「ノニ」の談話機能,” 「世界の日本語教育」 4(東京:国際交流基金日本語国際センター, 1994年6月), p.153.

で表現する機会が多いが、日本語では「いいと思います」と「思う」をつけたほうが安定する。「～たいです(싶습니다)」も同様で、韓国語ではあまり「思います」をつけないが、日本語では「～たいと思います」と言った方がよい。

このように「引用」の誤用は、韓国語の干渉によるものが多い。

1.2.習得の3段階からみた接続助詞の習得

前回の事例研究において、第二言語習得に際し、学習者は「逃避段階」、「試行錯誤段階」、そして「定着段階」という3段階の過程をふまえることを明らかにした⁵⁾。本稿では接続の各誤用項目について、習得の3段階を明らかにし、学習者がどのような過程を経て「接続」を習得していくのかを調べてみたい。

<表11>は「接続」の各誤用項目別の習得の3段階の過程を表したものである。これをみればわかるように、接続助詞のほとんどが、未だ逃避段階や試行錯誤段階にあり、学習者にとって「接続」が容易ではないことを示している。

定着段階に至っているのは、「条件」の「ト・バ」、「理由」を表す「カラ・ノデ」、「逆接」の「ケレド」に止まっている。

<表11> 「接続」習得の3段階

	誤用の種類		学 習 段 階				
			1	2	3	4	5
5.22.	条件	ト	●	●	○	○	○
		バ	●	●	●	●	○
		タラ	×	×	×	×	×
5.23.	カラ・ノデ	カラ・ノデ	×	●	○	○	○
5.24.		ノニ・ニモ	×	●	●	●	●
5.25.	ケレド・ガ	ケレド	×	○	○	○	○
		ノダケレド	×	×	×	×	×
5.26.	テ	テ	●	●	●	●	●
5.27.	テモ	テモ	×	●	●	●	●
5.28.	中止法・シ・タリ	シ	×	×	×	×	●
5.29.		ナガラ	×	○	●	●	●
5.30.	引用		●	●	●	●	●

註) × ; 逃避段階、● ; 試行錯誤段階、○ ; 定着段階

また試行錯誤段階の途上にあるのは、「ノニ」「テ」「テモ」「シ」「ナガラ」

5) 森山新, “韓国人日本語学習者の誤用について:作文による事例研究を中心として”(碩士學位論文, 高麗大学校教育大学院, 1996年 6月), pp.141-143.

「引用」で、未だ逃避段階に止まっているのが「タラ」「ノダケレド」などである。「ケレド」は用法・意味共に難しいものがなく、学習者にとっては容易に用いることができるため、〈第2期〉以降、複文の増加と共に何の抵抗もなく用いられはじめ、定着に至っている。

詳しくは「II.2.紛らわしい接続助詞」で述べるが、本来「条件」では「タラ」、「逆接」では「ノダケレド」が最も幅広く用いることができるわけであるが、「条件」は「ト」や「バ」に、「逆接」は「ノニ」に依存しすぎていることが、「タラ」や「ノダケレド」を使い切れずにいる最大の原因である。

「テ」については、用途も様々あり、接続の中核をなす重要な接続助詞であることから、早い時期にその用法を正確に把握することが求められる。特に「理由」に「テ」を使いすぎることがないように、また「~해서 그럴까」など韓国語の干渉を受けやすいものについては、直訳的な表現にならないように注意しなければならない。

「ナガラ」は〈第3期〉以降、韓国語の干渉を受けて、「~ナガライル」という誤用が目立ち始め、定着段階から再び試行錯誤段階に入り込んでしまった。

「引用」もまた、韓国語の干渉からなかなか抜けきれずにいる。正しい日本語を正確に習得し、母語の干渉から早く抜け出すことが必要である。

「シ」は形態（文法）的には終止形接続とやさしいのであるが、意味的にはやや制約の多い使いにくい助詞である。初期・中期においては、主に「テ」が用いられ、未だなじみの薄い「シ」を敢えて用いることはなかったが、表現の多様化の中で〈第5期〉辺りから「シ」が用いられはじめ、試行錯誤段階に入ったものと分析される。「シ」に関しては、特に「テ」と比較しながら、どのような時に「シ」が使われるのかを正しく把握することが大切である。

1.3.初期の誤用傾向

単文を中心とした初期学習者の作文が、学習段階の進展と共に、複文を用いるようになる時、まずもって利用するのが接続助詞「テ」である。前にも述べたが、接続助詞「テ」は、本稿の調査でも他の接続助詞に比べ、〈第1期〉からかなりの頻度で用いられ

、これに伴う誤用も<第1期>から現れている。

「テ」と同様に、<第1期>において比較的抵抗なく用いられているのが、条件の接続助詞「ト」である。「ト」は終止形に接続し、接続が簡単なことに加え、教科書でも早い段階から登場することが多い⁶⁾ため、「タラ」や「バ」が用いられるべき所にまで「ト」が用いられ、「ト→タラ・バ」の誤用を多くしている。

また「引用」で、「ト」や「トイウ」・「トオモウ」の欠落も<第1期>からかなり現れている。これらは主に韓国語の干渉が誤用の原因となっている。

1.4. 中期の誤用傾向

中期に入ると「テモ」や「カラ」、「ノニ」などの誤用が増えてくる。「ノニ」は後期になって本格的に誤用が頻発してくるが、中期においても少なからず誤用が発生している。学習初期において、「テ」一つで処理されがちであったものが、この段階に入って、徐々に原因・理由は「カラ・ノテ」、逆接は「テモ」さらには「ノニ」などへの使い分け（表現の多様化）が始まってきたものと思われる。

条件の接続助詞「ト」の誤用も、<第3期>ごろから減少しており、「ト」に依存しがちだった初期の傾向が中期に入り、「バ」や「タラ」への使い分けができるようになりつつあることがわかる。

1.5. 後期の誤用傾向

後期に入って、特に目立つのはまず、逆接の接続助詞「ノニ」をはじめ、表現の多様化に伴う「ナガラ」や「シ」などの誤用である。

「ノニ」は韓国語「~는데」を訳したものだが、後で詳しく述べるように、韓国語の「~는데」に比べ、日本語の「ノニ」は制約も多く、「~는데」を無条件「ノニ」に訳した場合、その多くが誤用となる。「~는데」に最も近いのは、「ノニ」でも「ケレド」でもなく、「ノダケレド」である⁷⁾。ところが、「ノダケレド」はあまり積極的には用いられないようである。その理由は恐らく、学習初期の教科書に

6) Kが学んだ朴成媛「標準日本語1 改訂版」(서울:進明出版社刊, 1971年改訂版)でも、「ト」は第12課(P.65), 「バ」は第28課(p.128), 「タラ」は第40課(p.184)で学習する。

7) 森山新, “韓国人日本語学習者の誤用について:作文による事例研究を中心として”(硕士学位论文, 高麗大学校教育大学院, 1996年 6月), pp.117-126.

において、「ノニ=～는데」と学び、その印象が余りにも強い反面、「ノダケレド」は直訳すれば「～것입니다만」であり、表現が若干まわりくどいためであると考えられる。

「ナガラ」や「シ」なども、学習初期・中期で「テ」で表現されていたものが、表現の多様化の中で、使われ始めたものであろうが、特に「ナガラ」は韓国語の干渉を受け、誤用が多発している。

2. 紛らわしい接続助詞

本稿の目的は誤用傾向及びその原因についての研究であり、類義語の違いについて研究することではない。従って今回は類義語の違いを説明することは、最低限に止めたい。

2.1. タラとノニ

「S₁タラ S₂」と「S₁トニ S₂」とを比較すると S₁ という前提要素に対し、「S₁タラ S₂」は予想・期待をや意外な結果が現れたことを示し、「S₁ノニ S₂」は予想・期待に反した結果が現れたことを示す。ここで予想・期待を上回るというのは、必ずしもよい結果ばかりとは限らない。「よい結果を期待していたが、それ以上だった」という場合もあれば、「少ししか期待しなかったのにかなりの状態になった」という場合、さらには「悪い結果を予想していたが、結果はそれ以上に悪かった」場合などを含む。これに対し「S₁ノニ S₂」は、S₁と S₂が相反した内容となっている。具体例を挙げてみよう。

<S₁>

<S₂>

- ・一生懸命料理を作ったら、意外においしくできた。
- ・一生懸命料理を作ったのに、あまりおいしくできなかった。

前述したように「S₁タラ S₂」は予想・期待を上回る結果や意外な結果が現れたことを示し、「S₁ノニ S₂」は予想・期待に反した結果が現れたことを示す。従って、「タラ」に後続する S₂は「期待以上に上手にできた」「予想以上にやさしかった」などの内容となる。これに対し、「ノニ」は予想・期待に反する内容であるから、「だれも食

べてくれなかった」「あまりおいしくできなかった」「かなり時間がかかってしまった」などの内容となる。

2.2. ノニとケレド

「ノニ」と「ケレド」の違いは以下のように集約される。

「 S_1 ノニ S_2 」； S_1 を焦点化する。

S_1 に対し S_2 は正反対のものを対比する。

「 S_1 ケレド S_2 」； S_1 を非焦点化し、 S_2 に焦点要素が来ることを予告することが多い。

S_1 に対し S_2 は様々な異なり具合のものを対比する⁸⁾。

やはり具体例を挙げてみよう。

< S_1 >

< S_2 >

・一生懸命料理を作ったのに、あまりおいしくできなかった。

・一生懸命料理を作ったけれど、おいしくできたかな。

まず焦点要素という点で見れば、「ノニ」は、 S_1 に焦点が置かれているのに対し、「ケレド」の場合には普通、 S_1 には焦点が置かれず、単に注釈的である場合が多い。

また「ノニ」の場合には S_2 は S_1 とは正反対のものが来なければならない。従って「おいしくできたかな」というような疑問文を後続させることができない。

これに対し「ケレド」は、様々な異なり具合のものを後続させることができるため、「あまりおいしくできなかった」といった正反対の内容をはじめ、上記例文のような疑問文など、後続要素にかなりの自由性を残している。

2.3. ケレドとノダケレド

前述したように「 S_1 ケレド S_2 」は、 S_1 を非焦点化し、 S_2 において、様々な異なり具合のものを対比する機会が多いが、少しでも焦点化すると、 S_1 と S_2 との関係は逆接的関係になる。例えば、

8) 今尾ゆき子, “「ケレド」と「ノニ」の談話機能,” 「世界の日本語教育」 4(東京:国際交流基金日本語国際センター, 1994年6月), pp.147-163.

<S₁>

<S₂>

- ・わざわざ来てみたけれど、あいにく彼は留守だった。
- ・彼は男だけれど、言葉遣いは女みたいだ。

というようにである。S₂に自由性を残し得るのは、S₁を注釈的要素として非焦点化した場合に限るようである。

これに対し、S₁を焦点化してもS₂を焦点化でき、S₂ 様々異具合対比「S₁ノダケレドS₂」である。例えば、

<S₁>

<S₂>

- ・一生懸命料理を作ったけれど、意外においしくできた。
- ・一生懸命料理を作ったんだけど、意外においしくできた。

を比べると、特にS₁が焦点化された場合、「ケレド」のほうは、S₂に逆接的要素を求めてくるため、何か不自然だが、「ノダケレド」のほうは、S₁が焦点化されても問題はない。

このため「ノダケレド」が「ノニ」「ケレド」「ノダケレド」の中で、最も幅広く用いることができるのであろう。従って韓国語の「~는데」に最も近いのは、「ノニ」でも「ケレド」でもなく、「ノダケレド」だと言えそうである。

2.4.テとシ

「シ」は「新明解国語辞典 第三版」⁹⁾によれば、

- ・ [話し手の意識の中で矛盾無く共存するものとしてとらえられた] 事実や条件を累加的に列挙することを表わす。
- ・ ある判断を・決定(正当)づける条件の一つを特に取り立てることを表わす。

このように「シ」は、「テ」と同様、主に事実や条件(原因・理由など)を(列挙して)述べる場合に用いられる。では両者の違いは一体何であろうか。

「シ」は矛盾無く共存する事実や条件に限られるが、「テ」は対比・対立などより幅広い列挙が可能である。例えば対比・対立の例として、

- ・ (外泊することは) 男はよくて、女はだめだ。

⁹⁾見坊豪紀他共著、「新明解国語辞典 第三版」(東京：三省堂，1981年2月)，p.461.

は問題ないが、

- ・ (外泊することは) 男はよいし、女はだめだ。

は誤用である。「シ」は対比・対立には用いられないのである。

また「S₁シ S₂シ」では、S₃など、それ以外にも事実や条件が残っていることを予感させるが、「S₁テ S₂テ」ではそれ以外的事实や条件が残っていることを予感させない。

さらに「シ」は条件の列挙によく用いられるが、「テ」は条件の列挙にはあまりよくは用いられない。例えば、

- ・ 眠くて、元気も出なくて、朝、出かけるのがいやだった。

よりは、「シ」を用いて、

- ・ 眠いし、元気も出ないし、朝、出かけるのがいやだった。

とした方がよい。

2.5.テとカラ・ノテ

「S₁テ S₂」と「S₁カラ S₂」「S₁ノテ S₂」とは、大まかに言って次のような違いがありそうである。

1) 「S₁テ S₂」は、「S₂がS₁の当然の帰結自然の流れであること」を強調しているのに対し、「S₁カラ S₂」「S₁ノテ S₂」は「S₂という結果が生じた背景にはS₁という理由があったこと」が強調されている。例えば、

<S₁> <S₂>

- ・ 交通事故があつて、遅れました。
- ・ 交通事故があつたから、遅れました。

を比較した場合、前者は「遅れたことは、交通事故の当然の結果である」という意味になり、後者は「遅れた理由は、交通事故があつたことである」という意味になる。

2) 「なぜならば」など、積極的な理由提起の表現と共に用いられる時は、「S₁カラ S₂」が用いられやすい。

- ・ 私はね、自信がだんだんなくなる。どうしてなら、とつてもじょうずな人が

多くて (→多いから)。(9410)

- ・ どうしてなら3時から患者があつて、はいしゃさんが6時に約束があつて (→あつたから) 早く終わりますね。(9411)

3) 理由を提示する S₁に話題の焦点があつたり、S₂に比べてS₁が長かつたりして、相対的S₁の比重が重い時には、「S₁カラ S₂」「S₁ノテ S₂」が用いられやすい。

- ・ でものこつた部分があつて (→あつたから) 書いている。(9501)
- ・ きゆうに雨がふつてあわてたね。でもすぐやんで (→やんだから) だいじょうぶでしたね。(9411)
- ・ 先輩がいっしょにHデパートに行こうとして (→言ったので)、電話できませんでしたよ。(9408)
- ・ ひるにはとってもあつくて (→あつたから)、勉強もできないですよ。(9407)
- ・ 読みたいと感じられる本がなくて (→なかったので) ただ帰りました。(9406)

4) 理由を提示する「テ」以外の「テ」が用いられている場合などは、混同を避け、「S₁カラ S₂」「S₁ノテ S₂」が用いられることが多い。

- ・ どうしてなら3時から患者があつて、はいしゃさんが6時に約束があつて→あつたから) 早く終わりますね。(9411)
- ・ でも時間がおそくなつてしまつて (→しまつたから)、まず勉強しようと考えて今勉強していますね。(9409)
- ・ きのうとってもおくれつてしまつて (→しまつたから)、きょう早く起きましたよ。(9409)

5) S₂が勧誘、命令、意志、依頼などの文の場合には、「S₁カラ S₂」「S₁ノテ S₂」が用いられる。

3. 接続の誤用の原因

3.1. 日本語教育の問題

誤用には語彙レベル、文構成レベル、談話レベルの3段階の誤用があること、また本稿で扱つてきた接続の問題とは、文構成レベルの誤用であることは、序論で述

べた通りである。

ところで現在、韓国の外国語学校などの教育現場において、こうした接続の問題が文構成レベルで教育・指導が行われず、単に語彙レベルでの教育・指導が行われているきらいがある。例えば「ト・バ・タラ」は「～면」、「テ」は「～고、～어/아」、「カラ・ノデ」は「～니까、～이기 때문에」、「ノニ」は「～는데」、「ケレド・ガ」は「～(지) 만」、「ナガラ」は「～면서」、「ト(引用)」は「～라고」というように、単に語彙レベルで置き換えられる場合が多いのではないだろうか。

ところが接続の問題は「Ⅱ.2.紛らわしい接続助詞」でみてきたように、接続助詞で結ばれた前接要素(S₁)と後続要素(S₂)が、接続助詞を中心としてどのような関係で結びつけられるかが詳しく説明されなければならない。特に紛らわしい接続助詞の違いは、単に語彙レベルで説明できるものではなく、文全体としてS₁とS₂との関係がどうなっているかの詳しい説明が必要であった。これを単に語彙レベルで教えた場合には、母語の干渉を受けた、様々な誤用を生み出す原因となりうるのである。

従って接続に関する日本語教育において重要なことは、接続は語彙レベルではなく、少なくともいくつかの例文を提示する中で、文構成レベルで教えられなければならないということである。特に中・上級レベルに至っては紛らわしい接続助詞相互間の違いにまで触れられれば、学習者としてより正確に接続助詞の問題を処理できるようになるであろう。

ところで、接続の問題が語彙レベルで教えられてしまっている背景には、教授法の問題も関係していると思われる。これまで韓国国内において盛んに用いられてきた文法訳読方式では、第二言語(日本語)を母語(韓国語)に単純に置き換える形で授業が進められる場合が多く、そうした中で接続助詞もまた、語彙レベルで扱われてしまうことが少なくないのである。

また「ト・バ・タラ」など、韓国語では同じく「～면」と表現しうる接続助詞については、実際の使い方とは別に、なじみの深いものや用法の簡単なものが優先して用いられやすい。例えば現実には「タラ」が最も広く用いられるのであるが、実際においては「タラ」は敬遠される傾向にある一方で、用法も簡単で学習初期に習

った「ト」はよく用いられることなどが、そのよい例である。同様なことは「ノニ」と「ノダケレド」、「テ」と「シ」などにも言えることである。

こうした問題は、これまでの日本語学習が、主に「構造シラバス」に基づき、「易から難へ」と教えられる教材や教授法であったことの弊害であるといえるであろう。この問題は「機能シラバス」など、「より使われるもの」中心の教育導入の必要性を示唆している。

3.2.母語の干渉の問題

前項でも若干触れたが、接続助詞の誤用のいくつかは母語（韓国語）の干渉を受けて生じたものである。例えば、「～해서 그럴까」を「～てそうかな（→～からかな）」としたり、「～면서 있다」を「～ながらいる（→～ている）」、「～니까 생각한다」を「～か思う（→～かと思う）／～かな思う（→～かなと思う）」などしてしまうのは、母語の干渉を受けた誤用の代表的な例である。この他にも引用のうち、強意の「トイウ」の欠如や、「～と思う」の欠如などにも多分に母語の干渉が作用している。

母語の干渉は、ある意味では第二言語学習上避け難い現象であるとはいえるが、特に接続の問題においては、例文を提示する中で、文構成のレベルでの接続助詞の役割や、接続助詞の前接要素(S₁)や後続要素(S₂)との関係をよく理解させ、語彙レベルの学習によって生じる母語の干渉を、最小限に食い止める必要がある。また同一の前接要素(S₁)に対し、様々後続要素(S₂)を準備しておき、それぞれの文を連結させるにはどのような接続助詞が最もふさわしいかを考えさせたり、様々な前接要素(S₂)に対し、どのような後続要素(S₂)が来るかを考えるなど、文構成レベル接続助詞の役割を考える練習問題なども有効であろう。

Ⅲ.結論

以上、作文による事例研究を通して、韓国人日本語学習者の誤用のうち、特に今回は接続の問題に焦点を絞り、その誤用の実態とその原因について見てきた。

研究の結果わかったことは、まず学習初期・中期・後期のそれぞれの時期において、どのような接続の誤用が起きやすいかという誤用の傾向を、大まかではあるが知ることができた。接続の誤用は全体的には複文の多くなる中期以降に多くなるが、中には「条件」の「ト」、「テ」、「引用」など、学習初期に既に誤用が見られ始めるものもある。学習中期になると、「バ」、「カラ・ノテ」、「テモ」、「ノニ」の誤用などが目立ち始め、後期には「ノニ」や「ナガラ」、「シ」の誤用などが特に多いことなどが明らかになった。

また接続の問題は、文構成レベルで扱われなければならない、これを単に語彙レベルで扱うとき、母語の干渉などが誘発され、誤用を増やす原因となることもわかった。そしてこうした問題は教授法や評価法など、日本語教育のあり方とも密接に関わっているため、接続の誤用を防ぐためには、最終的には教授法や評価法をも再検討する必要があることもわかった。

問題点としては、まず今回の調査は各接続助詞の誤用数の調査であり、使用数や誤用率の調査は行われていないため、厳密な意味ではどのような接続助詞が使われやすいかや、各接続助詞の誤用率について知ることはできなかったという点をあげなければなるまい。

また紛らわしい接続助詞の違いについての分析もまだ十分とは言えない。今後の課題としていきたい。

誤用研究はまだ始まったばかりであると言わざるをえない。今回のテーマである接続の問題を始め、さらなる研究を通して、一連の誤用研究の最終的目的である母語別教材の開発へと、一日も早くこぎ着けたいと思っている。

参考文献

- 市川保子. “中級レベル学習者の誤用とその分析：複文構造習得過程を中心に.” 「日本語教育」81, 日本語教育学会, 1993.
- 今尾ゆき子. “「ケレド」と「ノニ」の談話機能.” 「世界の日本語教育」4, 国際交流基金日本語国際センター, 1994.
- 寺村秀夫. 特別推進研究「日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究」分担研究「外国人学習者の日本語誤用例の収集、整理及び分析」資料, 「外国人学習者の日本語誤用例集」. 大阪大学文学部寺村秀夫研究室, 1990.
- 中川正弘. “作文の誤りと文体.” 「広島大学留学生センター紀要」3, 広島大学留学生センター, 1993.
- 森田良行・松木正恵. 「日本語表現文型」. 東京：アルク, 1989.
- 森田芳夫. 「韓国学生税 日本語学習拭 赤嬢辞税 誤用例」. 서울：誠信女子大学出版部, 1983.
- 森山新. “韓国人日本語学習者の誤用について：作文による事例研究を中心として.” 高麗大学学校教育大学院碩士学位論文, 1996.

＜付録 接続の誤用データの一覧＞

＜付録の見方＞

- ・「9306」とはKが93年6月に書いた作文であることを示す。
- ・「9509#」の「#」はその作文がワープロで打たれたことを示す。なお、ワープロは「NEC文豪mini5GX」で、ローマ字入力による。
- ・「ともたち→ともだち」は「ともたち」という誤用を「ともだち」と直したことを意味する。
- ・右端の表示は、その誤用文中に含まれる誤用の全てを示す。例えば「濁、平」とは濁音の誤用と平音の誤用が一つずつ存在することを示す。「濁3、平3」とは、同じような誤用「ともたち→ともだち」が3回くりかえされたため、そのように表示した。「A→NA」は形容詞の誤用を、形容動詞に修正したことを示す。
- ・スペースの関係上、誤用項目の表示は略号を用いた場合がある。略号の一覧を下に示す。
 - 1.発音 濁；濁音、 長；長音、 促；促音、 撥；撥音
 - 2.表記 平；平仮名、 片；片仮名、 漢；漢字、
 - 3.語彙 N；名詞、複；複数、 V；動詞、 複V；複合動詞、 A；形容詞、 NA；形容動詞、 副；副詞、 接；接続詞、 敬；敬語、 数；数詞、 疑問；疑問詞、 連体；連体詞、 品；品詞、 語；語彙
 - 4.形態 活V；動詞活用、 活A；形容詞活用、 活NA；形容動詞活用、 活助動；助動詞活用
 - 5.意味・シンタクス
受；受身、 使；使役、 可；可能、 引；引用、 表；表現
- ・「ル⇔タ」は文中のテンスを「ル→タ」「タ→ル」と入れ換えることを示す。
- ・「φ→ガ」は「ガ」の欠落を示す。「ガ→φ」は「ガ」が不必要なことを示す。
- ・一つの文中に2つ以上の誤用が含まれている場合には、該当する全ての項目に列挙してある。

尚、この作文は日記としての色合いも濃く、当初からこうした研究資料として書かれたものではないため、本人のプライベートの保護という意味から、その全てを紙面上に公開できず、誤用部分のみの掲載となった。また登場する個人名も基本的に記号で表記した。

5.22.条件 (ト・バ・タラ・ナラ)

<第1期>

9307	あらうしことがおわると→あらってから	ト→テカラ、N、濁、平
9307	2杯ぐらい飲むと→2杯程度なら	ト→ナラ
9307	不更だと→たいへんだったら	ト→タラ、漢、NA
9307	病院へ来るので→病院へ来てみると	ノデ→ト、テイル
9307	ねれば→ねたら	バ→タラ
9307	みますから→みたら	カラ→タラ
9308	だいじょうぶだと→だいじょうぶなら	ト→ナラ
9308	しれると→知ったら	ト→タラ、活V
9308	会えば→いる時は	バ→時、V
9309	病気になると→病気になったら	ト→タラ
9309	みますから→みたら	カラ→タラ
9402	月曜日になると→月曜日になったら	ト→タラ

<第2期>

9406	書くのをおわると→書くのが終わったら	ト→タラ、自他、ヲ→ガ
9406	10月になると→10月になったら	ト→タラ
9406	出会えば→出会ったら	バ→タラ
9407	会えば→会ったら	バ→タラ
9407	書きますから→書いていたら	ル→テイル、カラ→タラ
9407	言いましたから→言ったら	カラ→タラ
9407	どうしようかな→どうしたらいいかな	ヨウ→タライイ

- 9408 なるようにしましょう→なるといいですね トイ、ヨウニ、靨、ヨウ
- 9408 終わるとすぐ→終わったらすぐ ト→タラ
- 9408 これがおわると→これがおわったら ト→タラ
- 9408 家に帰って→家に帰ると テ→ト
- 9408 休んでいたのに→休んでいたら ノニ→タラ
- <第3期>
- 9409 行けばいい→行けたらいい バ→タラ、可能
- 9410 負ければどうかな→負けたらどうしよう バ→タラ、スル、ヨウ
- 9410 休んでいたのに→休んでいたら ノニ→タラ
- 9410 どうでしょうかな→どうしたらいいかな タライイ、ダロウ、スル
- 9411 悩みをしていますから→悩んでいたら カラ→タラ、スル、語(N→V)
- <第4期>
- 9412 ドジをすればどうしようかな→ドジをしたら～ バ→タラ
- 9501 一緒に行けばだめですか→一緒に行っちゃ～ バ→タラ
- 9501 これを書き終わると→これを書き終わったら ト→タラ
- 9501 どうしようかな悩んでいたのに→～と悩んでいたら ノニ→タラ、引用
- 9502 いっしょにおきるとなる→～おきればいい ト→バ、ナル
- 9502 持っていったから→持って帰ったら カラ→タラ、V
- 9502 電話をかけたのに→電話をかけたら ノニ→タラ
- 9502 休んで母が帰ってきたから→休んでいたら～ テ→タラ、ル→テイル
- 9502 家に帰ったから→家に帰ったら カラ→タラ
- 9502 結婚してどうするの→結婚したらどうするの テ→タラ
- 9502 完全に治るのを祈るなら→～祈りながら ナラ→ナガラ
- 9502 うれしくもらったらいいのに→ぜひ受け取ってください タライイ、ノニ→ケド、副
- 9502 どのように病院へ行くの→どのようにして～行ったらいいの タライイ、ル
- <第5期>
- 9509# 早くおわると→早くおわったら ト→タラ

9509# 電話したのに→電話したら	ノニ→タラ 2
9509# 結果が出ると→結果が出たら	ト→タラ
9509# どんな服を着るほうがいいかな→～着たらいいかな	タラ、ホウ
9509# コーヒーを飲んでいたので→～飲んでいたら	ノニ→タラ
9509# あげたのに→あげたら	ニ→タラ
9509# 確かに見たのに→よく見たら	ニ→タラ、副詞
9509# 勉強したすぐに→勉強したらすぐに	タラ
9509# いっしょにいたのに→いっしょにいたら	ニ→タラ
9509# 話してあげたのに→話してあげたら	ニ→タラ
9509# 2人になるとどうしよう→2人になったら～	ト→タラ
9509# ビデオを見ていたのに→ビデオを見ていたら	ニ→タラ
9509# 言ったからおこられた→言ったらおこられた	カラ→タラ
9509# 日本に来ると→日本に来たら	ト→タラ 2
9510# 残したのに→残したら	ニ→タラ
9510# 帰ってもう12時になって→帰ったら～なっていて	テ→タラ、ル→テイル
9510# 運動をしたのに→運動をしていたら	ニ→タラ、ル→テイル
9510# お見舞いをしていたのに→していたら	ニ→タラ
9510# 待っていたのに→待っていたら	ニ→タラ
9510# ビデオみたりしながら→みたりしていたら	タラ、カラ、ル→テイル
9510# めごうとしたのに→めごうとしたら	ニ→タラ、平、濁
9510# 電話をうけたのに→電話に出たら	ニ→タラ、V
9510# 話してたのに→話してたら	ニ→タラ
9511# 帰ったのに→帰ったら	ニ→タラ
9511 近づいたのに→近づいたら	ニ→タラ
9511 電話したのに→電話したら	ニ→タラ 2

5.23.カラ・ノデ

<第1期>

9307	みますから→みたら	カ→タ
9307	病院へ来るので→病院へ来てみると	デ→ト、テミル
9307	うちへきて→うちへ帰ってくるので	テ→デ、V
9307	いきて→帰ってきたので	テ→デ、V、テ形
9307	まちがいて→まちがえるので	テ→デ、自他、テ形
9308	ドジから→ドジだから	カ、ダ
9309	みますから→みたら	カ→タ
9309	吹いて→吹くので	テ→デ

<第2期>

9406	本がなくて→本がないので	テ→デ
9406	どう話すのをきいて→どう話すかを聞いてきたので	テ→デ、ノ、カ、テカ
9406	～もたべて→さらに～もたべたので	テ→デ、接続詞
9407	書きますから→書いていたら	カ→タ、ル→テイル
9407	言いましたから→言ったら	カ→タ
9407	11時になりましたから→11時になって	カ→テ
9407	父のことだから→父のことで	カ→テ
9407	新しい学生だから→新しい学生のため	カ→タメ
9407	おそく来て→おそく来たので	テ→デ
9407	とってもあつくて→とてもあつかったので	テ→デ
9407	とおくて→とおくから	テ→カ
9408	行こうとして→行こうと言ってきたので	テ→デ、V、テカ、スル

<第3期>

9409	おふろにはいったかな→～はいったからかな	カ
9409	私だから→私のために	カ→タメ
9409	おそくなってしまうて→おそくなってしまうたから	テ→カ
9409	おくれてしまって→おくれてしまったので	テ→デ

- 9410 多くて→たくさんいるから テ→カラ、語 (A→副詞)
- 9410 雨をふられてそうかな→雨にふられたからかな テ→カラ、ヲ→ニ
- 9410 気分がよくなって→気分がよくなかったので テ→ナラ
- 9410 買ってくるんとして→～くると言っていたので テ→ナラ、ル→テイル、V、人ダ
- 9411 悩みをしていますから→悩んでいたら カラ→タラ、スル、語 (N→V)
- 9411 止んで大丈夫でしたね→止んだから～よ テ→カラ、語尾
- 9411 約束があって→約束があるので テ→ナラ

<第4期>

- 9412 Sが来て→Sが来たので テ→ナラ
- 9412 でも時間がなかったんだから→だって～だもの カラ→モノ、接続詞
- 9501 私は遊んだから疲れているのにAは働いたから疲れているから→私は遊んで疲れているのにAは働いて疲れているのだから カラ→テ、人ダ
- 9501 白い雪だから→白い雪のために カラ→タメ
- 9501 私だから→私のために (せいで) カラ→タメ
- 9501 残った部分があって書いている→～あるので～ テ→ナラ
- 9502 持っていったから→持って帰ったら カラ→タラ、V
- 9502 Jだから→Jのために カラ→タメ
- 9502 母が帰ってきたから→母が帰ってきて カラ→テ
- 9502 家に帰ったから→家に帰ったら カラ→タラ
- 9502 親知らずだから→親知らずのために カラ→タメ
- 9502 かぜだからたいへんだったから→かぜで～ カラ→テ
- 9502 なぜかという～たいへんだね→たいへんだからね カラ
- 9502 あまりさむくなくて→あまりさむくないから テ→カラ

<第5期>

- 9509# シャワーをあびてそうかな→～あびたからかな テ→カラ
- 9509# 緊張してそうかな→緊張しているからかな テ→カラ
- 9509# 言ったからおこられた→言ったら～ カラ→タラ

- 9509# 久しぶりに会ってそうかな→~会ったからかな テ→カ
 9509# だからおなかがすいてきたから→~すいてきて カ→テ
 9510# 好きで→気に入ったから テ→カ、表現
 9511 とってきてと言って→とってきてと言ったから テ→カ
 9511 こなかったのについて→来なかったから カ、ニツ行
 9511 音楽を聞きながらいたのに→音楽を聞いていたので ニ→テ、カ→テ
 9511 言おうとして→言おうとしていたから テ→カ、ル→テ
 9511 緊張していてそうかな→緊張しているからかな テ→カ

5.24. ノニ・ニモ

<第1期>

- 9402 思ったのに→思っていたけど ニ→ケト、ル→テ
 9402 するのに→したのですけれど ニ→ケト、ル→タ

<第2期>

- 9406 聞いたのに→聞いたんだけど ニ→ケト
 9407 授業をきいたのに→授業について聞いてきたんですが ニ、テ、カ、ニツ行、ガ
 9407 11:20になっても→11:20になったのに テ→ニ
 9407 会おうと思いましたがのに→会おうとしましたが ニ→ガ、V、ル、語尾
 9407 少し飲んでも→少しだけ飲んだのに テ→ニ、タケ
 9407 行こうとするのに→行こうと思っていますが ニ→ガ、V、ル
 9407 考えたのに→考えたんだけど ニ→ケト
 9407 考えたのに→考えたけれど ニ→ケト
 9408 休んでいたのに→休んでいたら ニ→タ
 9408 見ましたのにも→見たけれども ニ→ケト、語尾
 9408 かけましたのに→かけたけど ニ→ケト、語尾

<第3期>

- 9409 着たのにも→着ているのに ニモ→ニ、タ→テ

9409	きているのにも→着ていても	ニモ→テ
9410	ふるんだと聞きましたのに→けど	ニ→ケレト*
9410	考えたのに→思ったけど	ニ→ケレト*、V
9410	2度しましたのに→2度しましたけど	ニ→ケレト*
9410	休んでいたのに→休んでいたら	ニ→タラ
<第4期>		
9412	女性がいるのに→女性がいたんだけど	ニ→ケレト*、ル→タ、/タ*
9501	おとったのに→おどったんだけど	ニ→ケレト*、/タ*、平、濁
9501	ふっているのに知ってる→ふっているけど～	ニ→ケレト*
9501	まるいおかしなの→まるいおかしだけど	ニ→ケレト*
9501	帰ったのに→帰ったんだけど	ニ→ケレト*、/タ*
9501	特別な感じがなかったのに→特に何も感じなかったけど	ニ→ケレト*、親
9501	どうしようかな悩んでいたのに→～と悩んでいたら	ニ→タラ、引用
9501	約束があったのに→約束があったけど	ニ→ケレト*
9502	電話をかけたのに→電話をかけたら	ニ→タラ
9502	うれしくもらったらいいのに→ぜひ受け取ってください	ニ→ケレト*、副タラ
<第5期>		
9509#	ポケベルが来たのに→ポケベルがきて	ニ→テ
9509#	心配したのに→心配したけど	ニ→ケレト*
9509#	食事しようとしたのに→食事しようと思ったけど	ニ→ケレト*、スル、V
9509#	電話したのに→電話したら	ニ→タラ
9509#	よい夢見るといいのに→よい夢見るといいけど	ニ→ケレト*
9509#	勉強していたのに→勉強していたけど	ニ→ケレト*
9509#	コーヒーを飲んでいたのに→～飲んでいたら	ニ→タラ
9509#	あげたのに→あげたら	ニ→タラ
9509#	帰ったのに→帰ったんだけど	ニ→ケレト*
9509#	確かに見たのに→よく見たら	ニ→タラ、副詞

9509# ポケベルが来たのに→～来たんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9509# 寝るほうがいいのに→ねたほうがいいけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ、ㇿ→ㇿ
9509# いっしょにいたのに→いっしょにいたら	ㇿ→ㇿ
9509# もう始まっているのに→もう始まっているけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9509# 思ったのに→思ったけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9509# 母もいなくて家に帰る→母もいないのに～	ㇿ→ㇿ
9509# うけたのに→うけたけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9509# 話してあげたのに→話してあげたら	ㇿ→ㇿ
9509# 負担だったのに→負担になっていたんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ、ㇿ
9509# 探したのに→探してみただけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ、ㇿㇿㇿ
9509# ビデオを見ていたのに→～見ていたら	ㇿ→ㇿ
9509# でているのに→でているんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# 連絡したのに→連絡したんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# 残したのに→残したら	ㇿ→ㇿ
9510# 通話していたのに→通話していたけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# 運動をしたのに→運動をしていたら	ㇿ→ㇿ、ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# お見舞いをしていたのに→していたら	ㇿ→ㇿ
9510# 待っていたのに→待っていたら	ㇿ→ㇿ
9510# 見たのに→見たけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# 電話がきたのに→電話が来たんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# ぬこうとしたのに→ぬこうとしたら	ㇿ→ㇿ、平、濁
9510# 電話をうけたのに→電話に出たら	ㇿ→ㇿ、V
9510# 乗ってきたのに→乗ってきたんだけど	ㇿ→ㇿㇿㇿ
9510# 話してたのに→話してたら	ㇿ→ㇿ
9511# 帰ったのに→帰ったら	ㇿ→ㇿ
9511 近づいたのに→近づいたら	ㇿ→ㇿ
9511 電話したのに→電話したら	ㇿ→ㇿ 2

9511 音楽を聞きながらいたのに→音楽を聞いていたので ㄷ→ㄱ, ㄱㄹ→ㄷ

5.25.ケレド (モ)

<第1期>

9402 思ったのに→思っていたけど ㄷ→ㄱㄷ, ル→ㄹ

9402 するのに→したのですけれど ㄷ→ㄱㄷ, ル→ㄷ

<第2期>

9406 聞いたのに→聞いたんだけど ㄷ→ㄱㄷ

9407 早く歩いてきても→急いで歩いてきましたが ㄷ→ㄱ, 語彙(A→V)

9407 授業をきいたのに→授業について聞いてきたんですが ㄱ, ㄷ, ㄱㄹ, ㄷ

9407 会おうと思いましたがのに→会おうとしましたが ㄷ→ㄱ, V, ㄷ, 語尾

9407 行こうとするのに→行こうと思っていますが ㄷ→ㄱ, V, ㄷ

9407 考えたのに→考えたんだけど ㄷ→ㄱㄷ

9407 考えたのに→考えたけれど ㄷ→ㄱㄷ

9408 見ましたのにも→見たけれども ㄷ→ㄱㄷ, 語尾

9408 かけましたのに→かけたけど ㄷ→ㄱㄷ, 語尾

<第3期>

9409 おかしく→変だけど ㄷ→ㄱㄷ, 語彙(A→NA)

9410 あいさつが遅れても→～が遅れたけれど ㄷ→ㄱㄷ

9410 ふるんだと聞きましたのに→けど ㄷ→ㄱㄷ

9410 考えたのに→思ったけど ㄷ→ㄱㄷ, V

9410 さっきまでねたが→さっきまでねていたけど ㄱ→ㄱㄷ, ル→ㄹ

9410 2度しましたのに→2度しましたけど ㄷ→ㄱㄷ

<第4期>

9412 楽しくても→楽しかったんだけど ㄷ→ㄱㄷ

9412 女性がいるのに→女性がいたんだけど ㄷ→ㄱㄷ, ル→ㄷ, ㄷ

9501 おどったのに→おどったんだけど ㄷ→ㄱㄷ, ㄷ, 平濁

- 9501 まるいおかしなのに→まるいおかしだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9501 帰ったのに→帰ったんだけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗
 9501 特別な感じがなかったのに→特に何も感じなかったけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗
 9501 ふっているのに知ってる→ふっているけど～ ㇗→㇗㇗㇗
 9501 約束があったのに→約束があったけど ㇗→㇗㇗㇗
 9502 うれしくももらったらいいのに→ぜひ受け取ってください ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗㇗

<第5期>

- 9509# 心配したのに→心配したけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 食事しようとしたのに→食事しようと思ったけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗、V
 9509# 一人でいても→一人でいるけど ㇗㇗→㇗㇗㇗
 9509# 勉強していたのに→勉強していたけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 着いたことがあって→着いたことがあったけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 寝るほうがいいのに→ねたほうがいいけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗→㇗
 9509# もう始まっているのに→もう始まっているけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 思ったのに→思ったけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# うけたのに→うけたけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 負担だったのに→負担になっていたんだけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗
 9509# 探したのに→探してみただけど ㇗→㇗㇗㇗、㇗㇗㇗
 9509# でているのに→でているんだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# よい夢見るといいのに→よい夢見るといいけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# 帰ったのに→帰ったんだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9509# ポケベルが来たのに→～来たんだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9510# 通話していたのに→通話していたけど ㇗→㇗㇗㇗
 9510# 見たのに→見たけど ㇗→㇗㇗㇗
 9510# 電話がきたのに→電話が来たんだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9510# 乗ってきたのに→乗ってきたんだけど ㇗→㇗㇗㇗
 9510# 連絡したのに→連絡したんだけど ㇗→㇗㇗㇗

5.26.テ

<第1期>

- | | | |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 9307 | あらうしことがおわると→あらってから | ト→テカ ^ラ 、N、濁、平 |
| 9307 | うちへきて→うちへ帰ってくるので | テ→テ ^カ 、V |
| 9307 | いきで→帰ってきたので | テ→テ ^カ 、V、テ形 |
| 9307 | まちがいて→まちがえるので | テ→テ ^カ 、自他、テ形 |
| 9307 | 今からよんでから→今からよんで | テ、カ ^ラ |
| 9307 | 雨がふられて→雨にふられながら | テ→テカ ^ラ 、ガ→ニ |
| 9307 | わずかて→わずかで | テ→テ、濁、平 |
| 9308 | あわてて→当惑させ | テ→中止法、V、使役 |
| 9308 | はずかしくて→恥をかかせ | テ→中、語 (A→V)、使 |
| 9309 | 吹いて→吹くので | テ→テ ^カ |
| 9309 | のみますから→飲んでから | テ、カ ^ラ |
| 9309 | 頭も痛くて体も痛くて→頭も痛いし体も痛いし | テ→シ |

<第2期>

- | | | |
|------|-------------------------|--|
| 9406 | かぜがみもあって→かぜがみでもあるし | テ→シ、テ ^{アル} |
| 9406 | 本がなくて→本がないので | テ→テ ^カ |
| 9406 | どう話すのをきいて→どう話すかを聞いてきたので | テ→テ ^カ 、ノ、カ、テ ^カ |
| 9406 | ～もたべて～もたべて→～もたべたし～もたべたし | テ→シ |
| 9406 | ～もたべて→さらに～もたべたので | テ→テ ^カ 、接続詞 |
| 9407 | 11時になりましたから→11時になって | カ ^ラ →テ |
| 9407 | おそく来て→おそく来たので | テ→テ ^カ |
| 9407 | とってもあつくて→とてもあつかったので | テ→テ ^カ |
| 9407 | 眠くて元気も出なくて→眠いし元気も出ないし | テ→シ |
| 9407 | とおくて→とおくから | テ→カ ^ラ |
| 9407 | 別れたから→別れてから | タ→テ |
| 9408 | 行こうとして→行こうと言ってきたので | テ→テ ^カ 、V、テ ^カ 、スル |

9408 手伝って慰労してあげたい→助けてあげたり慰労してあげたりしたい
テ→刈、V、平、濁、アゲル

9408 おもしろくてしてあげる→楽しくしてあげる テ、活A、A

9408 家に帰って→家に帰ると テ→ト

<第3期>

9409 おこって悲しくて→気分も悪くなるし悲しいし テ→シ、V

9409 若くて→若いし テ→シ

9409 おそくなってしまって→おそくなってしまったから テ→カ

9409 おくれてしまって→おくれてしまったので テ→ゾ

9410 気分がよくなって→気分がよくなかったので テ→ゾ

9410 多くて→たくさんいるから テ→カ、語 (A→副詞)

9410 雨をふられてそうかな→雨にふられたからそうなのかな テ→カ、ヲ→コ

9410 買ってくるんとして→～くると言っていたので テ→ゾ、ル→テ、V、人カ

9410 私ももっとがんばって→私ももっとがんばろう テ→ヨ

9411 天気も寒くて火曜日で→天気も寒いし火曜日だし テ→シ

9411 止んで大丈夫でしたね→止んだから～よ テ→カ、語尾

9411 おもしろくて遊びましたね→楽しく遊びました テ、語尾、A、活A

9411 バイトで→バイトして テ→テ、ル

9411 驚いておもしろかったよね→驚いたしおもしろかったね テ→シ、語尾

9411 頭もいたくて→頭も痛いし テ→シ

9411 患者があって→患者が来るし テ→シ、V

9411 約束があって→約束があるので テ→ゾ

<第4期>

9412 Sが来て→Sが来たので テ→ゾ

9501 私は遊んだから疲れているのにAは働いたから疲れているから→私は遊んで
疲れているのにAは働いて疲れているのだから カ→テ、ゾ

9501 残った部分があって書いている→～あるので～ テ→ゾ

9501	食べたりねたりしながらいた→～していた	カガラ→テ
9502	休んで母が帰ってきたから→休んでいたら～	テ→タラ、ル→テイル
9502	母が帰ってきたから→母が帰ってきて	カラ→テ
9502	結婚してどうするの→結婚したらどうするの	テ→タラ
9502	あまりさむくなくて→あまりさむくないから	テ→カラ
<第5期>		
9509#	ポケベルが来たのに→ポケベルがきて	ニ→テ
9509#	シャワーをあびてそうかな→～あびたからかな	テ→カラ
9509#	緊張してそうかな→緊張しているからかな	テ→カラ
9509#	テレビを見ながらいた→テレビを見ていた	カガラ→テ2
9509#	着いたことがあって→着いたことがあったけど	テ→ケイト
9509#	かりてくる→かしくくる	テ→ニ、V、自他
9509#	母もいなくて家に帰る→母もいないのに～	テ→ニ
9509#	借りてくる→借りにくる	テ→ニ
9509#	久しぶりに会ってそうかな→～会ったからかな	テ→カラ
9509#	新聞を見ながらいた→新聞を見ていた	カガラ→テ
9510#	話をしながらいた→話をしていた	カガラ→テ
9510#	ビデオを見ながらいた→見て過ごした	カガラ→テ、V
9510#	帰ってもう12時になって→帰ったら～なっていて	テ→タラ、ル→テイル
9510#	横になっていながら終わってる→横になって終わる	カガラ→テ、テイル→ル
9510#	好きで→気に入ったから	テ→カラ、表現
9511#	食べながらいたら→食べていたら	カガラ→テ
9511	とってきてと言って→とってきてと言ったから	テ→カラ
9511	音楽を聞きながらいたのに→音楽を聞いていたので	カガラ→テ、ニ→テ
9511	言おうとして→言おうとしていたから	テ→カラ、ル→テイル
9511#	ずっと来ながら→何度も来ては	カガラ→テ、ハ、副詞
9511	緊張していてそうかな→緊張しているからかな	テ→カラ

9511 休みながらいた→休んでいた かがら→テ

5.27.テモ

<第1期>

<第2期>

9407 早く歩いてきても→急いで歩いてきましたが テモ→ガ、副詞

9407 11:20になっても→11:20になったのに テモ→ニ

9407 少し飲んでも→少しだけ飲んだのに テモ→ニ、副詞

<第3期>

9409 きているのにも→着ていても ニモ→テモ

9410 あいさつが遅れても→～が遅れたけれど テモ→ケレト

<第4期>

9502 待っていても→待っていたんだけど テモ→ケレト

<第5期>

9509# 一人でいても→一人でいるけど テモ→ケレト

5.28.中止法・シ・タリ

<第1期>

9307 うたったりします→うたったりしました タリ、ル→タ、スル

9308 あわてて→当惑させ テ→中、V、使役

9308 はずかしくて→恥をかかせ テ→中、語 (A→V) 使

9309 頭も痛くて体も痛くて→頭も痛いし体も痛いし テ→シ

9309 勉強しました→勉強をしたりしました タリ

<第2期>

9406 かぜぎみもあって→かぜぎみでもあるし テ→シ、デアル

9406 ～もたべて～もたべて→～もたべたし～もたべたし テ→シ

9407 眠くて元気も出なくて→眠いし元気も出ないし テ→シ

9408 手伝って慰労してあげたい→助けてあげたり慰労してあげたりしたい

テ→刈、平、濁、V、テアゲル

<第3期>

9409 おかしく→変だけど

中→ケルト、語彙(A→NA)

9409 おこって悲しくて→気分も悪くなるし悲しいし テ→シ、V

9409 若くて→若いし

テ→シ

9411 天気も寒くて火曜日で→天気も寒いし火曜日だし テ→シ

9411 驚いておもしろかったよね→驚いたしおもしろかったね テ→シ、語尾

9411 頭もいたくて→頭も痛いし

テ→シ

9411 患者があって→患者が来るし

テ→シ、V

<第4期>

<第5期>

9509# 忙しくなったしひまになったし→～なったり～なったり シ→刈

9509# 忙しくなったしひまになったし→～なったり～なったり シ→刈

9511 トイレの問題だし、鼻水の問題だし→～問題と～問題と シ→ト

5.29.ナガラ

<第1期>

9307 雨がふられて→雨にふられながら

テ→カガラ、ガ→ニ

9307 みしながら→みながら

カガラ、活V、刈

<第2期>

<第3期>

9410 ぶらぶらしながらいた→ぶらぶらしていた

カガラ→テ

<第4期>

9501 食べたりねたりしながらいた→～していた

カガラ→テ

9502 完全に治るのを祈るなら→～祈りながら

ナラ→カガラ

<第5期>

9509# テレビを見ながらいた→テレビを見ていた	カガラ→テ 2
9509# 静かにしようと努力中→～努力しながら	カガラ
9509# 新聞を見ながらいた→新聞を見ていた	カガラ→テ
9510# 話をしながらいた→話をしていた	カガラ→テ
9510# ビデオを見ながらいた→見て過ごした	カガラ→テ、V
9510# ビデオみたりしながら→みたりしていたら	カガラ、ル→テイル、タラ
9510# 横になっていながら終わってる→横になって終わる	カガラ→テ、テイル→ル
9511# 食べながらいたら→食べていたら	カガラ→テ
9511# ずっと来ながら→何度も来ては	カガラ→テ、副詞、ハ
9511 音楽を聞きながらいたのに→音楽を聞いていたので	カガラ→テ、た→テ
9511 休みながらいた→休んでいた	カガラ→テ

5.30.引用

<第1期>

9307 と映画→という映画	ト→トウ
9308 すきなこと→すきだということ	φ→トウ
9308 恐縮であります→申し訳なく思っています	φ→トオコ
9308 妹ならいいです→妹ならいいと思います	φ→トオコ
9309 「トトロ」とテープ→「トトロ」のテープ	ト→ノ

<第2期>

9407 「早く早く」話す→「早く早く」と話す	φ→ト
9407 なくなっても→なくなったとしても	φ→ト
9408 大丈夫言います→大丈夫と言います	φ→ト
9408 休みたいと考え→休みたいという気持ち	ト→トウ、N、連体
9408 するか思っている→しようかと思っている	φ→ト、活V、ヨ、
9408 おわるかどうか思っています→終わろうかと～	φ→ト、カ、カ、ヨ、活V

<第3期>

- 9409 ねようかな思っている→ねようかなと～ $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9409 生きていると感じ→生きているという感じ $\text{ト} \rightarrow \text{トイ}$
- 9409 いいじゃないでしょう→いいと思いませんか $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、 ナ
- 9409 いいじゃないですか→いいと思いませんか $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、 ナ
- 9410 夜のほうがいいかな→夜といったほうがいいかな $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$
- 9411 寝ようか思っていた→～と思っていた $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9411 どうしようかな思っ→と思っ $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9411 ごめんな感じ→すまないという気持ち $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、表現、 N
- <第4期>
- 9412 すわっているかどうか考える→すわっていようかと考える ト 、 ヲ 、 活V 、 慣
- 9501 きれいだのと→きれいだということと $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、 $\text{ノ} \rightarrow \text{ト}$
- 9501 Hをもっと好きだと→Hのことがもっと好きだと ト 、 ト 、 $\text{ヲ} \rightarrow \text{ガ}$
- 9501 どうしようかな悩んでいたのに→～と悩んでいたら $\varnothing \rightarrow \text{ト}$ 、 $\text{ニ} \rightarrow \text{ヲ}$
- 9502 楽な感じがある→気楽でいいという感じがする $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、 NA 、 V 、 スル
- <第5期>
- 9509# すまない気分→すまないという気持ち $\varnothing \rightarrow \text{トイ}$ 、 N
- 9509# 何か必要かもしれないから保管して→～と保管して $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9509# 早く早く言いながら→早く早くと言いながら $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9509# びっくりしたと→びっくりしたって ト
- 9509# 大丈夫かな、心配しながら→～と心配しながら $\varnothing \rightarrow \text{ト}$
- 9509# 勉強してみようかな思う→勉強しようかなと思う $\varnothing \rightarrow \text{ト}$ 、 テスル
- 9510# 買おうかした→買おうかと思っていた $\varnothing \rightarrow \text{ト}$ 、 スル 、 V
- 9510# 食べて行行って→食べて行こうと ト 、 活V 、 ヲ